

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 6 月 13 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・研究生
氏名	辻紀海香

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
京都大学、日本
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ゲノム実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 5 月 29 日 ~ 平成 26 年 6 月 6 日 (9 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学理学研究科、阿形清和氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では、屋久島実習で採取された試料を使い DNA 解析を行った。この解析では、次世代シーケンサーを用いた DNA 解析を行うためのバイオインフォマティクスの演習を行った。この実習は、屋久島実習と併せることによりフィールドワークからゲノム解析までを実体験することを目的としている。実際の大まかなスケジュールは以下のとおりである。
<ul style="list-style-type: none">・ 5 月 29 日(木)~6 月 4 日(水) 屋久島実習で採取した糞サンプルを次世代シーケンサーで解析するための実験と、昨年のデータの解析を行った。・ 6 月 5 日(木) 国際セミナーでの発表準備。・ 6 月 6 日(金) 国際セミナーにてポスター発表。
私は host genome 班としてサル糞からサルの DNA を抽出し、解析を行った。また、国際セミナーにデータの解析が間に合わないため、昨年のデータを用いたポスターを作成、発表した。
この実習に参加することにより、次世代シーケンサーを用いたゲノムの解析はもちろんのこと、英語での指導や海外の学生とのコミュニケーションを取るという他ではなかなか得難い経験をすることができた。ゲノム解析をしたことがなく、英語に苦手意識を持つ私としてはかなりハードルの高い実習であったと感じているが、とても良い刺激を受けることが出来たと考えている。
今後の予定としては、グループレポートにて成果を報告する予定である。

写真 1. 次世代シーケンサー「MiSeq」 (撮影：沓間領)

写真 2. ポスター発表時の様子 (撮影：Mohd Abdul Muin Md. Akil)
6. その他 (特記事項など)